

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

記入日	8月21日		
所属学部	工学研究科		
所属学科・専攻	デザイン科学専攻		

1. 留学先について

留学先大学名	ENSCI Les Ateliers / Politecnico di MILANO			
留学先所属学部等	Industrial Design / Interior Design			
留学期間	出発日 2015/8/27	入学日 2015/9/2	修了日 2016/7/21	帰国日 2016/7/21
住居	<input type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート <input checked="" type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他()			
	通学時間	30分		<input type="checkbox"/> On campus
	通学方法	徒歩 / バス		
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> () 人部屋 <input type="checkbox"/> その他()		
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室 <input checked="" type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> リビング <input type="checkbox"/> その他()		
食事	自炊 70 %	学食 5 %	外食 25 %	その他 () * %で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)	東京海上日動		
	大学指定の保険(名称)	OSSMA	<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入	
	その他			
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)			
	成田 ⇄	パリ	⇄	ミラノ

3-1. 授業科目の選択、登録方法

* 登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

ENSCI Les Ateliers では15単位のメインコースを1つ、3単位のサブコースをいくつか選んで受講できました。合計33単位まで取ることができました。Politecnico di Milanoでは12単位の授業を一つ、その他は6単位の授業をいくつか選んで受講できました。合計は30単位まで取ることが出来ました。ENSCIの授業の登録は、留学担当の先生方と話し合い、一対一で受講コースを決定するという方法で行いました。Politecnico di MILANOではオンライン登録で行いました。ENSCIの場合は全体人数が少ないこともあり、ポートフォリオセッションで先生方に対して自分自身のデザインスキルを見せ、言語のレベル等も考慮した上で、授業の内容をしっかりと理解した上で決定することができました。それに対し、Politecnico di MILANOでは、学生の人数が多いため、取りたい授業が定員オーバーとなってしまったり受講できなかったり、十分な説明が無いまま登録が行われてしまったりしました。しかし、全て英語の授業だったため、言語の問題はありませんでした。

3-2. 授業内容、方法に関して

前半のENSCI Les Ateliers では、インダストリアルデザインを専攻しました。私がとった3つの授業は全てフランス語で開講されました。一つは工房を使ってプロダクトを作る授業です。金属の溶接やプラスチックの様々な加工方法等を実際の経験を通して学びました。メインの授業では企業の協力のもとで、旗艦店のデザインを行いました。先生がクライアントのような役割りとなり週に2回の個別ディスカッションを通してそれぞれの提案を行いました。フランス語を学ぶための授業も受講しました。この授業ではフランス語の文学や音楽等、文化的な内容を学びました。後半のPolitecnico di Milanoではインテリアデザインを専攻しました。ここでは全ての授業が英語でした。メインの授業では展示デザインについて、実際の建物のインテリアについてコンセプトから最終形態の提案までを行いました。照明デザインの授業でも実際の飲食店の照明計画の提案をプロのデザイナーの先生方の指導のもと行いました。Scent Designの授業ではにおいに対するデザイン的なアプローチについてを演習を通して学びました。

3-3. 語学力について

留学当初は、英語力の向上が一番再優先だと考えていましたが、ENSCIではすべての授業がフランス語だったため、英語とフランス語を同時に学びました。上記のとおり、フランス語の授業も受講しました。フランス語を学ぶことはフランス人の精神を学ぶことと捉えモチベーションを保ちました。しかしながら、やはりフランス語を理解するためには説明が必要です。友人や先生方にフランス語を教えてもらう時は、英語での説明をしてもらっていました。POLIMIでは全ての授業が英語で、グループワークも多かったため、英語のlistening, speakingは積極的に行うことが出来ました。結果として、英語力の向上につながったと思います。

3-4. 図書館など学内施設について

ENSCIは学内施設が非常に充実していました。アトリエでは、木、金属、樹脂、大型の加工、デジタルファブリケーション、PC,3D,電子機器、テキスタイル、撮影それぞれの使用材料と目的に応じて、別々の部屋が用意されていました。また学生が自由に使えるように、専属の先生方がいる体制が整えられていました。わからないことがあったら直ぐに質問して、目的のモノを作り出すことができたので、積極的に創造したいと思えるような環境でした。POLIMIでは沢山のリースペースがあり、グループワークに活用しました。しかしながら、学生の多さと繁忙期の重なりから、殆どの席が埋まってしまい、グループワークを行う場所が無いこともありました。アトリエや撮影室もあるようですが、実際に使うことはありませんでした。作った模型を保管しておく場所も限られていたため、グループワークや制作活動では自宅を活用することが多かったです。

3-5. その他

4. 生活面 *気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。

4-1. 住居について

パリでは貸し切りの小さいアパートマンに住んでいました。ベッドとリビングが同じ部屋のストゥディオと呼ばれるものです。パリの中心で学校から歩いて10分程度の好立地だったこともあり、家賃は高かったのですが、非常に快適でした。その他設備については、エレベーターなし日本式3階、バスタブ、2口コンロ、ソファベッド、液晶テレビ、暖房、洗濯機、wi-fi,その他家具つきで、エアコンはありませんでした。窓は道路側に面しておらず、目の前には壁がありましたので、見晴らしはよくありませんでした。しかし、パリの同時多発テロが起きてしまい犯人が捕まっていない状態のときは、奥まっている部屋の方がかえって安心だと感じました。ミラノでは浴室、キッチン、トイレが共同の個室を借りていました。ルームメイトは日本人女性の社会人でした。中央駅から徒歩5分という好立地で、日本式6階の見晴らしの良いアパートでした。その他の設備については、エレベーター、バスタブ、4口コンロ、クイーンベッド、セントラルヒーティング、洗濯機、wi-fi,その他家具月で、エアコンはありませんでした。6月後半からミラノは気温が上がり、エアコンのない部屋はとても暑かったです。その以外は非常に充実したコストパフォーマンスの良い部屋だったと感じます。

4-2. 食生活について

パリでは物価が高いため、外食はほとんどしませんでした。スーパーやマルシェで買う野菜は珍しいものが多く、安価で、自炊が楽しかったということも外食が少なかった理由のひとつです。果物は日本より安く、パンは美味しくて、オペラに行けば日本食のスーパーも充実した品揃えで、食事に困ったことはほとんどありませんでした。学校の中には学食はありませんでしたが、学校と協定を持っているパン屋さんとお惣菜屋さんが2店舗あり、そのお店では安くランチを買うことができました。ミラノではパリに比べて外食が多かったと思います。イタリアンのお店だけではなく、中華や日本食のお店も沢山ありました。ハッピーアワーの時間では10ユーロ前後で前菜ビュッフェができるバーが市内に多くありました。前菜と言ってもパスタや肉料理等のメインがあって、充実した内容でした。ピザは一枚7ユーロ前後で食べることができます。ランチタイムには学校の近くのパニーニ屋さんやパスタ屋さんに行くことが多かったです。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

パリもミラノも、学校やアパートのネット環境に関しては不自由していませんでした。パリでは部屋に備え付けの電話がありましたので、携帯電話を契約していませんでした。しかし外出時にだれとも連絡を取ることが出来ないことは危険だと感じたので、ミラノでは月12ユーロで携帯電話を契約していました。

4-4. 服装について

パリは、日本より夏は湿度が低く、冬は湿度が高い、過ごしやすい場所です。冬の寒さも耐えられない程ではありませんし、雪もほとんど降りませんでした。ミラノは3月からでしたので、本当の寒い冬が終わって、少しずつ温くなる時期を過ごしました。季節的な面から言うと、日本にいた時とほとんど変わりませんが、日本との性格的な違いは感じました。パリやミラノはファッションの街という印象を持っていましたが、日本のようにわかりやすい流行はありません。特にパリでは古着を上手に着こなす人が多くいます。日本と比べて、より個性を出して、自由に好きなものを着る習慣がある感じました。

4-5. 健康管理について

ミラノに滞在中に風邪をひいてしまいました。始めは鼻風邪だったのが、次第に悪化して重度の気管支炎のような状態になってしまいました。ミラノでは薬局が簡易的な医者役割りを担っていると聞いたので、英語の話せる薬剤師のいる薬局で薬を処方してもらいました。しかし、全くよくならなかったため、病院に行きました。病院は加入した保険会社の紹介で、事前予約、通訳の手配、支払いまで、全てを用意してもらいことができました。保険にはいることの重要性を再確認しました。

4-6. 保険、OSSMAの利用 *利用実績等をご記入ください

上記のように、病院に行くための手配を保険会社に頼みました。またOSSMAには病院にいくためにはどうしたらよいか、を問い合わせました。それ以外では、バッグが盗まれたときに、携行品損害の手続き等で利用しました。OSSMAには盗まれてしまったフランスビザの再発行の方法を相談しましたが、教えてもらった方法では解決しませんでした。

4-7. 課外活動について

ミラノではミラノサローネというデザインイベントが行われました。インテリアを中心とし、世界中から集められた最新のデザイン見本市です。イタリアのデザインを知る良い機会となったことはもちろんですが、日本のデザインにも触れることができました。日本企業の出展では日本独自の繊細さや礼儀正しさ、文化的側面、技術的側面が効果的に伝わってくるような展示が多く見られました。もちろん日本だけではありませんが、それぞれの国や言語、出展企業を、よく知っている人も知らない人も、みんなで楽しめる、心に残る、感動する、そういった経験ができる素敵な空間が沢山ありました。商談の為に開催されているイベントでありながらも、一般の人でも参加可能で、楽しめるようなイベントが沢山ありました。世界中の様々なデザイン見ているなかで、日本の個性とは何か、ということ再度考えなければなりません。これらの考察は将来の自分の仕事に直結していると考えてられるので、これも学んだことの一つとして大切にしたいと思います。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

学外のコミュニティで思い当たる交流はありません。

4-9. 日本から持参してよかったもの

醤油、みりん等の調味料、海外で使える銀行口座のキャッシュカード(事前の手続き必須)

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

折り紙(日本の文化を伝えるためと思って持って行きましたが、みんな知っています。)電子辞書(電子辞書を開く前にスマートフォンで検索してしまうから)

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

習慣やマナーは日本と全く異なります。まずあいさつの仕方が日本と違い、初対面でもより親密になることができます。パリとミラノに住んでいる人々は必ずしもパリ生まれ、ミラノ生まれではありません。移民や出稼ぎが多い都市であり、人種も年齢層も様々です。またどちらも観光客が非常に多く、"習慣"と言っても、何がオリジナルの習慣でマナーなのか、正直半年ずつの滞在では、わからないことが多くありました。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行 * 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

ex) 【イギリス・ロンドン&フランス・パリ(観光)】〇〇年〇月(5日間)、約5万円

【スペイン・バルセロナ】2015年10月、約5万円、
 【フランス・ストラスブール/ロワール/モンサンミッシェル】2016年1月～2月、約5万円、
 【イタリア・フィレンツェ/ローマ/その他中部イタリア複数都市】2016年7月、約7万

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

何回かオペラやバレエを観賞しました。1公演10ユーロ前後の安さで観ることができます。パリではオペラ座という歴史的な劇場や、オペラ・バステューユという現代的な建物の劇場でオペラやバレエを上演していました。ミラノではスカラ座でバレエやオペラを上演していました。

5. 報告

5-2. 留学先大学について(150～200文字)

パリデザイン大学は、パリの中心部にあるインタストリアルデザインとテキスタイルデザインの学科からなる少人数制の国立学校でした。留学生は全員で10人程度で、その他の学生はフランス人です。授業は全てフランス語で開講されていました。ミラノ工科大学は、ミラノ郊外にあるボヴィザキャンパスで、数千人のデザイン学生がいる大きな学校でした。大学院生の授業は全て英語で開講されていました。

5-3. 留学中の様子(450~500文字)

前半のバリデザイン大学では今までに使ったことのない工具や機械に触れることが出来ました。学生それぞれが自分の提案したものをイメージだけで見せて終わりにするのではなく、実際のかたちを手に触れて使用出来るものを作ります。作る工程も踏まえたより現実的な提案を行うことができました。また他人からのリアルな意見を得ることももつなりました。クライアント企業の協力のもとに行った授業では、最終的に企業デザイナーやスタッフの方々へ向けて、プレゼンテーションと展示会というかたちでの発表を行いました。クライアントとしての意見とプロのデザイナーとしてのアドバイスを頂くことができました。自分たちの提案をわかりやすく説明するための工夫を学生がそれぞれに行ったこともあり、多様なアプローチの仕方を知ることが出来ました。ミラノ工科大学では実在する建物を対象としたインテリアデザインに取り組みました。テーマとなる内容の詳細だけではなく、実際の建物の歴史的背景や立地等についても十分な調査を行う必要がありました。またグループで行ったため、様々な観点から生まれた提案を行うことが出来ました。

5-4. 留学希望者へのアドバイス(300~400文字)

留学前は、学内選考、留学希望校への申請、滞在許可申請、卒業研究発表等、沢山のステップを乗り越えなければなりません。焦りや不安、ストレスのたまる日々が続くために、留学前にはへとへとになってしまいかもしれません。しかし自分自身の成長のためだと思って、地道に頑張ってください。留学先に到着してからはそれまでの生活が一変します。楽しいことも、辛いことも、感動することも、不安になることも、倍の大きさで感じられます。留学の一年間は学校で学んだことだけが成果として残るわけではありませんので、学校がない休みの日も、毎日を有意義に使って下さい。沢山の友達をつかって、積極的に出かけたり、イベントに誘ってみたりするようにしてください。友達関係を大切にしていれば、困ったときは助けてくれます。沢山の経験を共有した仲間は留学を終えて、日本に戻ってからも、続く仲になると思います。

5-5. 留学を終えて * 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

新しいことやものを、見て体験して吸収する、それがこの1年間の続けたことです。デザインに関することだけではありません。人々の気質や常識の違いを受け入れ、それに対応出来るようになったことは大きな成長だと思います。もうすぐ始まる就職活動では企業の性質や理念を理解しそれに合わせた行動が求められますと思います。現在希望している進路はディスプレイ系の企業ですが、就職後もクライアントに対して同じようなスキルが求められると思います。少しでも留学経験で得られたことを活かせると思いいます。また留学を経験したことにより、日本のために貢献できるような職に就きたいと思うようになりました。それは日本にいと気がつくことができないような客観的な視点から日本の良さを実感したからです。また日本が海外からはどのように見られているのかを知っていく中で、もっと日本の良い部分を引き出して、海外にアピールすることの出来るようなデザイン活動に関わりたいと思うようになりました。

お疲れ様でした